☆王であるキリスト（１１月２０日）の聖書朗読☆ ※主任司祭からの解説があります。

第一朗読　（サムエル記下 5 章 1-3 節）

その日、イスラエルの全部族はヘブロンのダビデのもとに来てこう言った。「御覧ください。わたしたちはあなたの骨肉です。これまで、サウルがわたしたちの王であったときにも、イスラエルの進退の指揮をとっておられたのはあなたでした。主はあなたに仰せになりました。『わが民イスラエルを牧するのはあなただ。あなたがイスラエルの指導者となる』と。」
イスラエルの長老たちは全員、ヘブロンの王のもとに来た。ダビデ王はヘブロンで主の御前に彼らと契約を結んだ。長老たちはダビデに油を注ぎ、イスラエルの王とした。

第二朗読（使徒パウロのコロサイの教会への手紙 1 章 12-20 節）

みなさん、わたしたちは光の中にある聖なる者たちの相続分に、あなたがたがあずかれるようにしてくださった御父に感謝するように。御父は、わたしたちを闇の力から救い出して、その愛する御子の支配下に移してくださいました。わたしたちは、この御子によって、贖い、すなわち罪の赦しを得ているのです。御子は、見えない神の姿であり、すべてのものが造られる前に生まれた方です。天にあるものも地にあるものも、見えるものも見えないものも、王座も主権も、支配も権威も、万物は御子において造られたからです。つまり、万物は御子によって、御子のために造られました。
御子はすべてのものよりも先におられ、すべてのものは御子によって支えられています。また、御子はその体である教会の頭です。御子は初めの者、死者の中から最初に生まれた方です。こうして、すべてのことにおいて第一の者となられたのです。神は、御心のままに、満ちあふれるものを余すところなく御子の内に宿らせ、その十字架の血によって平和を打ち立て、地にあるものであれ、天にあるものであれ、万物をただ御子によって、御自分と和解させられました。

福音朗読（ルカ 23 章 35-43 節）

　議員たちは、イエスを議員たちも、あざ笑って言った。「他人を救ったのだ。もし神からのメシアで、選ばれた者なら、自分を救うがよい。」兵士たちもイエスに近寄り、酸いぶどう酒を突きつけながら侮辱して、言った。「お前がユダヤ人の王なら、自分を救ってみろ。」イエスの頭の上には、「これはユダヤ人の王」と書いた札も掲げてあった。十字架にかけられていた犯罪人の一人が、イエスをののしった。「お前はメシアではないか。自分自身と我々を救ってみろ。」すると、もう一人の方がたしなめた。「お前は神をも恐れないのか、同じ刑罰を受けているのに。我々は、自分のやったことの報いを受けているのだから、当然だ。しかし、この方は何も悪いことをしていない。」そして、「イエスよ、あなたの御国においでになるときには、わたしを思い出してください」と言った。するとイエスは、「はっきり言っておくが、あなたは今日わたしと一緒に楽園にいる」と言われた。

朗読解説　―主任司祭より皆様へ―

　秋らしくなり、銀杏の木もまっ黄色に染まり、ひらひらと舞い散っています。コロナ感染症が再拡大しつつありますが、皆さまお元気でおられることと思います。先週の日曜日は、小坂神父様、阿部神父様の記念の日で大勢の方にお祝いいただきました。久しぶりに焼きそばやフランクフルトを御庭で食べることが出来て、幸せな一日となりました。ご参加くださりお祝いいただき感謝いたします。

　さて今日の日曜日は教会の典礼の暦では最後の日曜日にあたり「王であるキリスト」の祭日です。この世の終わり（いつなのか誰も知らない）にキリストが私たちを復活させて神の国の完成されるありさまを表現した祭日です。私たちはみなこの日のことを目指しているのです。また教会はこの日を「世界青年の日」と定め、教会における青年たちの存在と力を認め、キリストに従う青年たちを励ます日でもあります。

第一朗読　（サムエル記下 5 章 1-3 節）

イスラエルの全部族がダビデのもとに来て、サウルに代わる王になるように頼み、油を注いだことが記されています。油を注がれることは神のものになることを示し、ダビデはイスラエルを統一する王になっていくのです。私たちも実は油を注がれています。洗礼の時に、額に油（聖香油）を注がれているのです。それはキリストの国に入る印でもあります。今日は特にこのことを思いキリストの王国の一員であることを起こしましょう。

第二朗読（使徒パウロのコロサイの教会への手紙 1 章 12-20 節）

パウロは私たちの世界のあらゆる権威・主権はイエス・キリストにあることをコロサイの教会の人々に伝えています。そしてイエスの十字架の贖いによって私たちはすべてこのイエス・キリストの権威のうちに与っているのです。現代では国民に犠牲を強いている権威主義者がいますが、キリストはそのような方ではありません。キリストは信ずる人々にとってすべてとなっておられる方です。そのイエスは私たちのために十字架に着けられ、すべてを捧げられ、すべての罪を許し、一人残らずご自分の国に招いておられるのです。

福音朗読（ルカ 23 章 35-43 節）

今日読まれる福音はイエスが十字架に付けられたとき、同じ十字架刑に処せられた罪人の信仰告白とイエスの応答です。人生の最後に訪れたイエスへの信仰告白と神の国への招きです。イエスは人間のどのような状況にあっても常に救いの手を伸べられるのです。この人のこれまでの人生は何と辛いものだったでしょうか。その最後の現場に神は待っていてくれたのです。私たちの現代社会は今まさに混とんとしています。いつミサイルが飛んでくるかわからない危険を感じる時代、侵略戦争が起こってしまう世界、多くの人々が正しいと思っていることが簡単に覆される時代です。しかしこのような時代にあっても神は私たちの側にいてくださいます。

私たちの思う平和が実現していなくても、神の国はいつもそばにあるのです。人の思いと神の思いは違うからです。キリストへの信仰こそがこの苦難を耐え忍ばせてくれるのです。十字架上の罪人の言葉をかみしめましょう。「イエスよ、あなたの御国においでになるときには、私を思い出してください」。「はっきり言っておくが、あなたは今日私と一緒に楽園にいる」。

上高地・田代池付近（2021 年 11 月）

P.S.

来週は教会の典礼歴の最初の日曜日、待降節第一主日です。この日からミサの新しい式次第が使われます。最初は慣れないかもしれませんが少しずつ慣れていきましょう。また、今日のミサの後にその説明と読みあわせがあります。

今日のミサの中で洗礼を希望されている方の入門式を行います。クリスマスに受洗の予定です。受礼を希望されている方のためお祈りください。

カトリック足立教会
主任司祭　野口重光